

麒麟・アーカイブとシミズ・アーカイブズの相違点

図書館基礎特論レポート

坂井 桃音 (理学部生命理学科)

今回は両者の違いについて考察するという課題であったが、違いを探る中で共通点も見つけることができたのでそれについても共に述べる。

まずは『Muse』の30号(2017.9)、31号(2018.2)における共通点と相違点についてである(表1参照)。同誌ではそれぞれの企業のアーカイブだけではなく、アーカイブを扱う職員についても言及されていたのでそれも含めたうえで述べる。

	麒麟・アーカイブ	シミズ・アーカイブズ
共通点	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体のデータベース化 ・研究の一助 ・資料を知り、読み込むことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・エクセルのデータベース登録 ・伝承と活用が大切 ・専門性を持った後継者の養成
相違点	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド価値を高めるもの ・現物収集にこだわる 	<ul style="list-style-type: none"> ・OBに声掛けして、アーカイブ収集 ・資料のみの保存管理

表1 麒麟・アーカイブとシミズ・アーカイブズの共通点と相違点 (Muse30、31)

共通点一つ目は両者とも紙媒体をデータベース化したことで、作業効率の向上や手軽に閲覧したり情報発信したりできるようになった点である。二つ目はレコードを保存管理するだけでなく、活用することで新規の研究などに活かすことができる点。三つ目は、アーカイブを扱うスタッフ自身が資料を知り読み込んで理解することでより良いサービスを提供できるという理論に基づき、専門性を持ったスタッフを配置させることの重要性を唱えていた点である。特にシミズでは自社の職員がその役割を担うことに重きを置いていた。

次は相違点について述べる。麒麟・アーカイブはそのレコードを公表することで自社のブランド価値をアピールしたいという思いがあることや、現物収集にこだわっている点などが挙げられる。シミズ・アーカイブズの特徴としては、OBに声をかけて収集したことにより様々な記録・写真などがオリジナルで保存状態が良好なことや、建築会社ならではの唯一残るものは資料のみである点などである。

続いて、両者のウェブサイトを開覧して見つけた違いについて考察する。

『Muse』でみた両者は共通点が多かったが、ウェブサイトを開覧してみると大きな違いを見ることができた(表2参照)。

麒麟ビールはまず見た瞬間に“楽しそう”と思うような写真やイラスト・図が多くカラフルだった。一方で清水建設は主に会社概要が簡潔で読みやすくなかかれており、麒麟ビールと比較するとかっちりしていて“THE・会社”のHPというイメージを受けた。

これらの大きな違いは何から生まれたのだろうと考えてみると、それぞれの企業が「誰に

対して商売しているのか」という点の違いだということに気づいた。これは私の見解であるが、キンビールは商品を一般客に対して比較的多く売り、一方で清水建設は企業や法人に対して商品を提供している点に違いがあるのではないか。つまり、キンビールはBtoC（Business to Customer）の企業で、清水建設はBtoB（Business to Business）の企業である。キンビールの場合スーパーマーケットに商品を陳列したりレストランなどに発送したりして直接お客さんの手に商品が渡るのに対して、清水建設は企業や法人から依頼されたものを作ったり提案したりして社会に商品を送り出しているという点が最大の相違点である。

	キンビール	清水建設
相違点	<ul style="list-style-type: none"> ・カラフルで色彩鮮やか ・イラストや写真が多い ・ミュージアム、ワイナリー見学、工場見学、講義、セミナー、展示・体験スペース等 客に向けたサービスを多く実施	<ul style="list-style-type: none"> ・会社概要、事業内容、定款、機構図、アクセス、沿革、歴史や事業成果、未来に向けた計画等を中心に書かれている。 ・上記の内容を凝縮した紹介映像
まとめ	→BtoC	→BtoB

表2 キンビールと清水建設の相違点（ウェブサイト）